

# 営業の概況

**鉄鋼関連事業** 国内鋼材需要は、造船・自動車などの製造業向けを中心に底固く、輸出についても、中国を始めとする東アジア地域の旺盛な需要に支えられて、高水準で推移しました。また、昨年の夏場以降懸念された国内鋼材在庫の積み上がりについては、本年に入り適正水準に向かいつつあります。この結果、国内市況は再び上昇に転じ、価格改善が着実に進みました。輸出に関しても、旺盛な鋼材需要並びに原材料・半製品価格が高騰していることを受け、各品種で価格が上昇しました。

このような状況のもと、当社の鋼材出荷数量は増加し、価格改善効果と相まって、当事業の売上高は前期比5%増の5,483億円となりました。

**アルミ・銅関連事業** アルミ圧延品の売上高は、飲料用缶材がアルミボトル缶向けの増加により堅調に推移したことに加え、アルミ化が進む自動車向けや液晶製造装置向け板材等も順調に数量を伸ばしたことから、全体として前期を上回りました。

銅圧延品の販売量は、半導体リードフレームや自動車用端子など電子材料向けの板条が好調に推移しました。また、日本メーカーが海外で生産するエアコン製品・部品の輸入が前年並みに留まったことなどから空調用銅管も堅調に推移し、全体として前期を上回りました。

この結果、製品売上高は増加したものの、アルミ地金関連事業撤退の影響により、当事業全体の売上高は前期比2%減の2,433億円となりました。

**機械関連事業** 国内向け受注は、都市ごみ処理施設の需要が低迷しているものの、産業機械やエネルギー・原子力関連および環境対策関連設備の受注が増加したことから、前期比31%増の1,497億円となりました。海外向けは、中国を中心としたアジア地域における自動車生産の増加を背景にゴム・タイヤ機械の受注が増加したものの、プラント案件の大幅な減少により前期比18%減の339億円となりました。この結果、国内・海外を合わせた受注高は前期比18%増の1,837億円となり、当期末の受注残高は1,562億円となりました。

一方、売上高は、都市ごみ処理設備の受注低迷の影響により、前期比9%減の1,962億円となりました。

**建設機械関連事業** 国内市場では、公共工事が減少傾向にあるものの、油圧ショベルを中心とした中古車の海外輸出等による国内保有台数の減少や、更新時期を迎えた機械の買い替えなどにより新車需要は回復しました。また、海外についても、引き続き中国市場が拡大したことに加え、欧米や東南アジアが回復基調となり、中東、ロシア地域においても需要が伸長するなど、ほぼ全域に亘って好調に推移しました。

このような国内外における需要増加を背景に、主要市場における販売量が増加したことから、売上高は前期比17%増の1,839億円となりました。

**不動産関連事業** 主力の不動産販売事業において、「摩耶シーサイドプレイス・イースト4番館、5番館」(神戸市灘区)、「オーズタウン・サウス2期」(兵庫県明石市)、「オーズガーデン1期」(兵庫県明石市)など大型物件の販売が好調であったことから、売上高は前期比微増の431億円となりました。